平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	5 － 12

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	精神障がい者・家族等支援事業					
評価者	担当課名		保健福祉課	担当係名		保健係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	山崎佳之		氏名	佐々木希美枝
事業の概要	精神障がい者当事者及び家族が、住み慣れた地域での生活の継続と生活の質（QOL）の向上を図る事を目的に、地域生活・社会参加に資する活動を支援する。			全体計画 /単年度繰返 （平成 20 年度～ 24 年度）		
				事業費	国・道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	千円
					事業費計	千円
実施方法	■ 直営		民間委託		その他（　　）	
第５期総合計画（前期）	■ 登載事業		非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～			
	基本施策	6	保健・医療の充実			
	単位施策	4	メンタルヘルス対策の推進			
	事務事業の種類	■	自治事務		法定受託事務	
	その他計画・根拠等		精神保健福祉法、障害者自立支援法			

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	千円	千円	千円	千円	千円
	合計	千円	千円	千円	千円	千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	精神障がい者、家族等関係者	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	精神障がいを抱えながら地域で安定した健康的な生活を送ることができる	精神障がいに関する相談件数		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	病状が安定し障がい者自身の能力を活用して充実した地域生活を送ることができる	① 精神障がい全般に関する相談件数の増（平成22年度実績377件）	目標年度	平成23年度
			目標値	377 件
			実績値	282 件
			達成度	74.8 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	健康的で充実した地域生活を送る精神障がい者が増える	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
精神障害者家族会・回復者クラブ運営支援	旧包括支援センターを活動拠点として活動の強化・安定に向けて、精神障害者回復者クラブ、家族会活動の運営支援を行った。
個別相談支援	訪問・電話などによる個別相談支援を行った。

3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	■ 義務的なもの □ 全部 ■ 一部	精神保健福祉に関する相談支援は身近な市町村で実施する義務がある。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

概ね有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 □ 達成 ■ ほぼ達成 □ 下回る	障がい者・家族からの相談に対応し、ほぼ目標値を達成することができた。今後も地域包括支援センターや町外専門機関等との連携のもと、障がい者の地域生活の推進を図る必要がある。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■ 事業費抑制 □ 人員削減 □ 時間短縮・作業軽減 ■ その他	事業経費の負担はなく、支援に要する人員も必要最低限として効率化を図ることができた。また、地域活動支援センター相談員の協力を得ることで専門的・広域的な視点での支援を得ることができた。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 ■ 受益者負担がある □ 受益者負担がない □ 受益が一部に偏る ■ その他	回復者クラブ、家族会等の運営は主に受益者負担により運営されており、公平性を保つことができた。いずれも自主組織ではあるが、精神障がいに関する唯一の団体であり、同じ課題を抱える当事者にとっては悩みを共有し支え合いを通じて地域生活を継続する上で必要な組織として一定の支援が必要であると考える。

4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
会員の高齢化、町外への転出等のため会員数は減少しているが、活動拠点における活動の拡大と、他の団体との共同事業の開催などを図りながら事業を進めることができた。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
第三次雄武町障がい者計画の目標にある、町内における地域活動支援センター開設の基盤として、当事者ニーズを踏まえた支援を継続する。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）